

平成27年度事業報告

東大阪大学附属幼稚園

1. はじめに

新制度の1年目がスタートし、東大阪市内私立幼稚園で新制度に5園が移行した。本園は、27年度も私学助成の形態で運営したが、府からの経常費補助金の大幅な減額はなく、園児数も28年度も、27年度とほぼ同数程度確保できた。新制度の基での教育保育の質の維持・向上の視点と、幼稚園全体の資金収支の視点から今後の状況を検討し、新制度移行を慎重に検討していきたいと考えている。27年度の取り組みの詳細は以下のとおりである。

2. 園児募集の工夫と取り組み

昨年度と同様に、ホームページの充実を図り、幼稚園案内と共に、幼稚園ブログを行事、保育共に詳しい内容を多く発信してきた。在園人の保護者、幼稚園選びをしている保護者の方に本園の魅力的な取り組みを理解していただき口コミと共に、新入園児の保護者にも幼稚園の良さを理解していただき、園児募集につなげるように工夫してきた。また、2歳児未就園体験保育のサクランボルームのブログも多く発信し、3歳児の獲得の大きな原動力であるサクランボルームの園児獲得こそ幼稚園経営の柱であるとの認識に立ち、多くの工夫を凝らし、内容を充実した。

また、サクランボルームの保護者にも、幼稚園選定理由や幼稚園への要望等のアンケートを実施し、保育内容の改善の資料とし、実践に反映させていった。

3. 2歳児未就園体験保育（サクランボルーム）

27年度は、38人の応募がありほとんどが本園3歳児保育へと入園した。3歳児78人のほぼ半数を占める。統計的にサクランボルームの数が3歳児入園の数に連動するためサクランボルームへの体験入園は、最大の3歳児入園の募集活動となっている。そのため、保護者園児たちにとって、魅力のある活動・取り組みを展開することが大切であるとの認識で、1日コース、2日コース、5日コースと設定し園児の状況に応じた対応ができるように工夫した。

また、母子分離の時期も6月にし、トイレ・トレーニングも早くするなどの工夫もした。2学期末からは、4時間保育の体験をし、3歳児と同じ時間帯の体験保育の実施もした。遠足、キッズファームでの自然体験学習など、3歳児の保育内容と同じようにし、体験保育の内容を充実させた。保護者にも好評であり、結果、28年度の実績は4月現在で40人となり、来年度の入園に向けての良いスタートが切れる状況である。

4. 休業期間中の卒園児預かり保育

小学3年生までの卒園生の夏季休業期間中預かり保育を実施した。合計251人の卒園生が来園し、好評であった。今後も継続して実施していきたい。

5. 次年度への課題

27年度の保育内容の課題、園児獲得の課題、教職員の教育活動・意識変革の活性化を図るため、㊦、教職員の接遇研修、㊧教職員の自己評価の実施、㊨土曜日11時間開園預かり保育実施、㊩5日間給食実施（選択制）㊪、配慮児研修と共に各学年公開保育実施等を予定している。